

第3次江田島市総合計画基本構想（案）ご意見への回答

※頂いたご意見については、長文のものなどがあつたため、趣旨を損なわない範囲で加工させていただいています。

意見 No.	該当する頁	意見内容	回答
1	2頁	多用されている「みんな」とは、その都度誰をさしているのでしょうか。P15では、みんな（住民・移住・外国・観光）とあるが、その他の主体は入らないのでしょうか。	本計画で示す「みんな」とは、「市内外の江田島市に関わるあらゆる人々」を指すものです。ご意見にある15頁の「みんな（住民・移住・外国・観光）」という表現は、ワークショップで市民の方がまとめられたご意見をそのまま記載したものです。
2	3頁	・総合計画の付属資料である「コンセプトブック」は、どのようなもので、今後どのような使われ方をするのでしょうか。 ・「コンセプトブック」の内容に関するパブリックコメントの機会を与えていただきたいです。	・コンセプトブックは、後世にわたって江田島市民が大切にしていきたいまちの誇りや想いを整理する冊子とする予定です。まちづくりを推進する際の「合言葉」であり、本市への誇り、愛着を高めるためのツールとして活用できるような検討したいと考えています。 ・コンセプトブックの作成は、市民ワークショップの中で検討していく予定なので、是非ご参加頂ければと思います。
3	3頁	・第2次総合計画により進めてきた10年間の検証はいかがだったのでしょうか。人口の目標値や観光客100万人の目標の達成ができなかった理由を検証した上で次の構想や計画を立てた方がよいと思います。 ・第1次や第2次をどのように捉えて、第3次ではどのような行政の思いがあるのでしょうか。行政主導の市民参加や市民参画から市民主導・市民主体の行政への移行なら大歓迎です。	・第2次総合計画の期間は令和6年度となりますが、目標値の達成は厳しい状況にあります。この間、想定以上の人口減少の進展や世界的な疫病の蔓延などの諸要因もありますが、総合計画の目標値の設定方法として理想値を掲げる手法も見直すべきであると考えています。 ・これまでのまちづくりの振り返り（検証）については、10～11頁に総論として記載しています。 ・なお、16頁の基本的な考え方にあるとおり、「江田島市に関わる「みんな」が『まちをよくしていこう』という想いをもちまちづくりに参画」することが大切だと考えています。
4	3頁	・総合計画を踏まえて各分野の計画を策定するとのことですが、各分野の計画の見直しの準備はどれくらい進んでいるのでしょうか。総合計画の作成の際にある程度の現状での課題や見直しのポイントくらいは整理できていないと、総合計画をとりまとめる際に困るのではないかと思います。	・分野別計画は、国の計画の内容を踏まえて作成する必要があるものや、前回計画の期限を引き継いで作成するものなど様々にあるため、作成時期は計画ごとに異なります。 ・ただし、総合計画はまちづくりのビジョンを示す最上位計画であり、各分野別計画は、そのビジョンを踏まえつつ、より詳細な内容を整理していくもので、総合計画との整合性を図りながら作成されるものです。
5	10頁	・「都市圏に近く、生活機能がある程度揃った都市基盤」との記載がありますが、市民アンケート等では公共交通や日常生活の利便性等に不満があるとの回答が多くなっており、市と市民の認識との間には乖離があるのではないかと思います。 ・次期総合計画の10年間で、市民が求めている都市基盤（生活基盤）を確保することになるのでしょうか。	・10頁の記述は、「都市圏と数十分で結ぶ交通手段があること」「教育機関、医療機関、商業施設が市内に一定数あること」から、「ある程度の」生活機能が揃っているという現状を事実として記載しており、市民アンケートの結果は、こうした現状に対する評価であると認識しています。 ・次期総合計画では、19頁に重点テーマを掲げており、生活基盤については、「健康で安心して幸福」な暮らしを送ることができるという視点で施策を進める考えています。
6	10-11頁	・これまでのまちづくりの振り返りとして、この10年間の江田島市の動きについて、以下の事項を課題や変化として追記いただきたい。 ①3F（フルーツ、フラワー、フィッシュ）の取組の変化。みかんからオリーブ・レモンへの移行 ②3Fの取組の変化。瀬戸内海の栄養不足と海水温の上昇による牡蠣の生育不全。処分業者撤退による牡蠣殻処分先の確保の必要性。 ③市民の健康増進の源である温泉利用者の激減：市所有のえたじま温泉（旧能美温泉） ④土砂災害対策及び避難所の整備（体育館の地域管理移行、交流プラザの建設等） ⑤コロナ禍による観光客、観光イベントの激減（イベント廃止などによる活力低下） ⑥バス便、船便の減少 ⑦ユウホウ紡績工場の廃止による人口減及び活力の低下 ⑧未利用公共施設の増加 ⑨空家の増加、空き家活用によるゲストハウス等の宿泊施設やカフェ等飲食店の増加。 ⑩能美温泉の喪失。（風呂に入って食事ができる施設をどこかに復活させていただきたい。温泉の宅配を実現させていただきたい。）	分野における個別課題や取組内容については、基本計画で整理することとしていますので、今後のとりまとめ作業の参考にさせていただきます。
7	16頁	【将来像について】 ・抽象的で共通の認識を得にくい印象です。 ・短く明瞭なキャッチコピーにするか、より具体的にイメージできるような文言にしたほうがよいと思います。例えば島根県海士町のように、「島の幸福論～江田島ならではの笑顔の追及～」などはいかがでしょう。	・将来像については、アンケートやワークショップ、ヒアリング等で抽出された、市民や事業者など様々な方が思い描く将来像のキーワードを盛り込んで整理しています。（「島の恵み」「住みやすさ」「賑わい」「繋がり」など） ・ご指摘のとおり、フレーズのみでは目指す姿の解釈に揺らぎが生じる可能性があるため、解説文の内容も含めつつ、周知を図っていきます。
8	18頁	・暮らしの指標についても、毎年度アンケートを行って見直しに役立てるのが良いのではないのでしょうか。	・暮らしの指標（暮らし満足度、住みよさ、愛着）については、単年で大きく変動するものではないという考えのもと、中間年に推移を確認することとしております。 ・なお、基本計画では、分野別に別途目標値を設定する予定であり、そちらでも進捗管理を行うことを想定しています。
9	18頁	・自然増を増やすための子育て世帯の移住促進や多子優遇策など国策にさらにプラスする施策を打ち出すためにも、人口減少を踏みとどめるための目標値を設定してほしい。	・ご意見の趣旨を踏まえ、人口指標に、次の目標値を追加します。
10	18頁	「出生数の減少による人口減が大きい。転入転出は転入増で改善傾向」と人口状況分析をしているなか、10年の目標値の人口指標は「社会増減ゼロ」としている。「出生数の減少による人口減」に対しての目標がないが、昨年度の出生数は72人であり、出生数の急激な減少は本市で危機的課題であると思う。人口の目標値を出生数の増の方を設定し、全体ビジョンを推進するべきではないか。	年間出生数の改善 令和5年（基準値） 令和16年（目標年次） 64人 ⇒ 年間出生数100人台の回復 ※基準値は、住民基本台帳（10月1日現在）による。
11	18頁	江田島市の出生数の減少は江田島市にとって大きな課題となっています。今後は、結婚から出産、子育てと切れ目ない支援を行い、自然減の抑制を図っていく必要があると思います。こうした考えから、総合計画に、出生に関する目標値があつた方がよいのではないのでしょうか。	
12	18頁	【目標値について】 ・原案では人口指標と暮らしの指標となっていますが、内部の指標に加え外部からの評価も指標に入れるべきではないのでしょうか。 ・例えば、「江田島市の認知度を●●%にする」（H28.3 江田島市印象調査をもとに） 「住みたい田舎ランキング（宝島社）で10位以内にランクインする」 などはいかがでしょう？	・総合計画で目指すのは、現在の世代も、将来の世代も”幸福に暮らすことができる”まちを作ることであり、そのための将来像であり、施策であるという認識です。このため、基本構想で設定する目標値は、市民の暮らしの幸福度・満足度を図るための指標を最上位のものとして設定しています。 ・今後策定する基本計画では、分野ごとに指標を設定することを予定していますので、ご意見で頂いたような目標値の設定については、基本計画の中で検討していきます。
13	18頁	【目標値の設定について】 重要テーマとして、「多様な人材、団体の交流やチャレンジを促し、まちの賑わい・活力を創出」とありますが、現在設定している【人口指標】と【暮らしの指標】だけで「まちの賑わい・活力」に係る効果を図れるのでしょうか。【賑わい・活力の指標】として、交通量や観光消費額、事業者数等を目標値に設定しても良いのではないかと思います。	
14	19頁	・導き出された重点テーマの根拠が不明です。内容がふんわりしていて、結局何に重点を置いているのかよくわからない感じがして、具体的な施策・事業への展開は難しいように思います。 ・3番目と4番目は人口減少を前提とした消極的な取組に感じます。	・重点テーマは、アンケートやワークショップ、ヒアリング等で抽出された、市民や事業者など様々な方の「こうなってほしい」というまちの将来像をもとに整理したものであり、各施策を展開する際に念頭に置くべき思想として設定しています。具体的な取組は、基本計画や実施計画で検討していきます。 ・前述のとおり、人口構造を勘案すると、本市の今後10年間の人口減少は確度の高い未来予想として考えざるを得ないのが現実です。それを食い止める努力を行うのは当然ですが、こうした未来が実際に到来した場合も対応可能なまちづくりを進めておく必要があると考えています。
15	19頁	【重点テーマについて】 ・重点テーマと言いつつ、割と総花的に網羅されている印象です。 ・将来江田島市が生き残っていくためには、これからの10年は選択と集中による思い切った施策展開が望ましいと考えます。 ・どの分野も重要ですが、最も力を入れるべきは「子育て支援」と「教育（子どもたちへの）」であると考えます。人口問題に最も効果があるのでこれらの分野になります。 事例：明石市、浦幌町、流山市など	・重点テーマは、アンケートやワークショップ、ヒアリング等で抽出された、市民や事業者など様々な方の「こうなってほしい」というまちの将来像をもとに整理したものであり、各施策を展開する際に念頭に置くべき思想として設定しています。具体的な取組は、基本計画や実施計画で検討していきます。 ・第3次総合計画では、「幸福に暮らすことができる”まちを作ることが重要であり、市民の皆さんの理想の将来像を実現するために必要なテーマが複数あるという認識のもと、重点テーマを設定しています。

第3次江田島市総合計画基本構想（案）ご意見への回答

※頂いたご意見については、長文のものなどがあつたため、趣旨を損なわない範囲で加工させていただいています。

意見 No.	該当する頁	意見内容	回答
16	19頁	【高齢者を取り残さないための取組について】重要テーマとして、「様々な分野に新技術を積極的に取り入れ、活力の創出や暮らしの機能を確保する」とあり、限られた資源等を有効活用するには、必要な取組だと思ひます。一方、市内の高齢化率は40%を超え、単身高齢世帯が増えており、その前段階としてデジタルに慣れない高齢者を取り残さないための取組も必要と思ひます。	・デジタル技術をはじめとする新技術を活用する際に、それを使えない方を取り残さないという視点は必要です。使えない方への対応も備えたいうえで、新技術の導入を図って行くべきと考えています。
17	20頁	重点テーマを削除して、分野ごとに具体的な施策・事業を書き込んではどうか。	・具体的な施策は、基本計画や実施計画に掲げていくこととしております。
18	20頁	危機管理の観点で、土砂災害・地震津波対策・対ミサイル防衛などについて整理する施策分野が必要ではないでしょうか。呉市の総合計画には盛り込んであったように思ひます。	・危機管理の分野は、20頁の「5安全・安心」で整理していく予定です。
19	20頁	「まちづくりを取り巻く状況」に対する課題解決のビジョンを20頁のどの分野別ビジョンに行政施策として反映し、取り組んでいくつもりなのかについて明記していただきたい。	・まちづくりの課題に対する対応は、分野で明確に区分できるものとは限りません。11頁の「美しい環境づくり」とあるように、課題に関する説明文にあるだけでも、ごみ処理、道路管理、農地管理、空き家対策、環境保全など、多岐他分野に及ぶことが汲み取れるかと思ひます。 ・このため、20頁の施策体系において、各分野に共通する思想として、4つの重点テーマがあるという図を掲げています。
20	—	江田島市の強みである「里海」の打ち出し方が弱い。市がどれほど大事に思っているのかが判然とせず、熱い思いが感じられないのが残念である。 瀬戸内海を東西に見渡しても、わが島ほど多様かつ貴重な海洋生物相に恵まれた海はないのではないかと思うが、この豊かな里海について、われわれ市民、さらには市外の方々は、さとうみ科学館のサポートを得ることで、比較的容易に実感することができる。 わが島の豊かな里海と、長年にわたりノウハウを蓄積してきた「さとうみ教育」についてもっと自信をもって、対外的な強みとして打ち出していただきたい。	・「里海」については、19頁に「美しい自然や地域資源等の島の豊かな恵みをみんなで大切に引き継ぐ」とあるように、重点テーマとして掲げています。また、「さとうみ教育」についても、20頁の「1教育・文化」の説明文に、「豊かな自然環境や人材を活かした教育」と明記しているところではあります。 ・具体的な取り組みについては、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。
21	—	新総合計画を策定した後の進捗管理のあり方がよく分からない。PDCAサイクルを適切に回し、10年後の目指す姿や目標値に着実に前進していけるよう、議会に対して、より意欲的に、定期的に報告するよう求める。	・18頁にあるとおり、基本構想においては、掲げた目標値について、5年経過後に市民アンケート調査を実施し、進捗を確認することとしています。 ・また、具体的な取り組みについては、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。これらについても目標値を設定し、進捗管理を行う予定です。 ・具体的な方法は今後検討しますが、進捗状況については、適切な時期をとらえ、市民や議会に報告してまいります。
22	—	合併後20年経過していますが、江田島市全体の中で、どこを拠点地区とし、どのような土地利用を考えているのかについて、都市計画マスタープランのような全体像を示した方がよいのではないのでしょうか。	・今後基本計画や実施計画で具体的な施策を整理する過程で、土地利用像を示す必要性が生じた場合は、掲載について検討してまいります。
23	—	【外国との交流に関する提案】ギリシャとご縁を継続したり、新しい海外の国々との交流を促していくために指針となる記述が必要ではないですか。できれば、いろんな都市と姉妹都市や友好都市を結んで、市民や企業が交流や連携していく江田島市になっていただくことを期待しています。	・具体的な取り組みについては、ご意見を踏まえつつ、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。
24	—	【広域連携による新規航路の提案】：新規通勤先・通学先・活動先の確保 ①切串・幸ノ浦⇄似島（臨海少年自然の家）②沖美（畑）⇄観音マリーナ（既存）③沖美（畑）⇄商工センター④沖美（畑）⇄宮島⑤沖美（畑）⇄大竹（小方港）⑥沖美（畑）⇄岩国空港（漁港）	・具体的な取り組みについては、ご意見を踏まえつつ、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。 ・なお、航路は基本的に民間事業者の自主事業であり、新規航路の就航は、持続的な採算性の確保が可能であることが前提として必要であると考えます。
25	—	【遊休公共施設の利用増進アイデア】 ○入鹿多目的広場：2025年に運航開始予定の空飛ぶタクシーを利用した新たな交通拠点を整備し、沖美町長地区を港、ヘリポート及び空飛ぶタクシーの交通結節点とし、瀬戸内海のドローンによる輸送の物流拠点として整備してはどうか。	・具体的な取り組みについては、ご意見を踏まえつつ、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。
26	—	【市民アイデアを反映した総合計画づくりの手法の提案】 ①毎月、月末締めで市民アイデアを募集し、出てきたアイデアについて該当部署が意見を付けて、総合計画審議会や市議会特別委員会若しくは全員協議会に諮り、市政に反映させるべく総合計画内に位置付ける。（第5次広島市総合計画においては、市民ワークショップで出たまちづくりのアイデアの一部を総合計画の各区の計画において「まちづくりビジョン」として掲載し、実現させようとする市民グループに補助金を出して実施した。一部は区の担当部署が予算を確保し、実施した。市民活動支援の予算は8区で1億円を超えていた。） ②総合計画に位置付けるまちづくり提案を考える市民グループに先進地視察や活動する補助金を準備し、総合計画の取りまとめた後も継続的な活動予算を確保し、江田島市の活性化に努めていただく。 ③行政の若手職員とまちづくりに関心の高い市民が協同してまちづくり提案をまとめる。その際は、一緒にまちづくり提案を作成することを導いてくれる講師を招き、共に学びながら提案をまとめる行政職員も市民もまちづくりに関するスキルアップが期待できる。	・具体的な取り組みについては、ご意見を踏まえつつ、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。 ・なお、ご提案の内容は、現行の市民提案型補助金制度を活用することでも実現可能と考えますので、ご検討頂ければと思います。
27	—	・市の将来を導くため、経営の大基本である、付加価値額の確保を基軸に整理すると、以下の切り口となると考えられます。 ①住民による活性化②事業による活性化③観光による収入 ①②は人口減の影響を大きくかぶることになりますが、今後出生する新生児があらたな命を産めるのが20年前後の先である以上、人口減はこの先20年はほぼ勝負あったと理解すべきです。この先20年の人口減が確定的な中、①はよろか②すら事業の拡大の阻害要因になってしまっている可能性すらあると思ひます。 ③は、市としてすでに力を入れて頂いている大きなポイントではありますが、広島市や宮島に内外からの観光客があふれかえっているのに比し、まだまだ打つべき点がある可能性があるのであります。 ・本市には、トレッキングやサイクリングの英語版マップが無いのが実態だと思ひます。また、英語版江田島観光パンフの表紙は、旭日旗であり、お渡ししにくいパンフでした。海外からの観光客は、瀬戸内海の美しい自然に魅了されて来るのであり、それを理解した観光インフラの整備が必要だと感じます。 ・海外からの観光客はまずネットで事前に調べますので、これら江田島の魅力をネット上でうまく表せるよう、あらためての検討が必要だと考えます。 ・瀬戸内の島としては、広島市などからのアクセスの良い当時はポテンシャルは大きいはずで、付加価値額の取り込みのポテンシャルがあるものと考えられます。ここへの着目と打ち手をぜひお願いしたいと考えます。観光客の増加と、江田島市内の公共交通網の再強化を含めたインフラの整備を同時進行で進め、ジリ貧に歯止めをかける、まだ予算額の規模のある今が最後のチャンスかもしれません。	・仰るとおり、観光振興は、外貨の獲得による経済効果のみならず、本市との接点を持つ関係人口づくりの入り口としての効果も期待できます。 ・具体的な取り組みについては、ご意見を踏まえつつ、基本計画や実施計画の策定過程で検討するとともに、別途策定が予定されている観光振興計画でも整理してまいります。
28	—	【2】長期的視点での取り組みを！ ・30・40歳代によるプロジェクトキーメンバーによる検討を！ 大きな構造変換の打ち手がまさに求められている環境下にはありますが、有効な手はかなりの年月を効果的に要するものと思ひます。10年というスパンを越えて、20年30年後に江田島市をどういう姿に持っていきたいか！？を描き、そこに向けた大きな施策を打って行くランドデザインが必要と考えます。それを描くには、今30・40歳代でコアメンバーを形成し、検討していく必要があると考えます。（もちろんかなり先の話となり、読めない要素は多くあると思ひますので、ローリングで見直ししながら進む姿だと思ひます） ・江田島市出身者で、現在江田島市の外に居住し職に就いている方にも、このランドデザイン策定と管理に参画を呼び掛ける。そうすることで、いずれそれの方々がこの美しい故郷に戻ってくる可能性も高まるものと思ひます。また、このように江田島市出身者で、働き口は外に求めて出て行ってしまふ方は、外の世界でいろいろな経験を積んで来るので、戻ってこられた際には江田島にとって非常に貴重な戦力になるものと思ひます。外に職を求めていく方は多いですが、それは否定せず、但しつながら持ち続け、将来戻って来てもらえるようにすること。これが肝要なのではないかと思ひます。	・今回策定する総合計画においては、10年後における将来像の実現に向け、どのような施策・まちづくりを推進していくかを定める計画としております。また、今回の総合計画の策定においては、高校生や30代以降の若者も含めた市民とのワークショップ等、多様な参画による計画策定を進めているところではあります。 ・頂いたご意見は、総合計画という枠に留まるものではなく、協働のまちづくりのあり方・進め方に関するものと理解しております。多くの方が参画するまちづくりの進め方について、引き続き検討してまいります。

第3次江田島市総合計画基本構想（案）ご意見への回答

※頂いたご意見については、長文のものなどがあつたため、趣旨を損なわない範囲で加工させていただきます。

意見 No.	該当する頁	意見内容	回答
29	—	・産婦人科の設置 少子化への対策上、これは予算を割り当てない手は無いです。広島市内などに事前宿泊する費用を補填するという対処療法も理解しておりますが、初産などでは出産日が変動するというリスクもあり、島内で産めないというのは大きなリスクと考えられてしまうと思います。	・「救急医療ネット」によれば、産婦人科は呉市内においても11施設しかなく、分娩が可能な施設はさらに限られるという状況です。 ・産婦人科医の不足が根底にあることから、この課題の解消は容易ではありませんが、引き続き可能性を探ってまいります。
30	—	・海ゴミの対策 きれいな里海を守ることは、江田島の大切な自然を守ることであり、それなくして観光産業の活性化も無いと思います。ここは事業者の単年度のみでの判断ではなく、中長期的視点で、市全体で、今後掛かり続ける海ゴミ回収費用の積算や、海洋資源への影響を考えた対策が必要ではないでしょうか。フロート発泡スチロールから、よりゴミにならず長期的に持つものに変更していくことに、市が支援してはいかがでしょうか。	・アンケートやワークショップでも、市民の皆さんは本市の自然を誇りに思い、大切にしたいと思う意見が多くありました。このため、重点テーマに「美しい自然や地域資源等の島の豊かな恵みをみんなで大切に引き継ぐ」ことを掲げており、具体的には、海ゴミ対策も含まれると考えています。 ・具体的な取り組みについては、ご意見を踏まえつつ、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。
31	—	提案 【えたじま海の図書館】を宇品～三高航路、宇品～切串航路に設置する ・フェリー航路は利用者は年々減少し、赤字経営が続いています。これまで利用者減を食い止める起爆剤となる施策はなかなか見つかりませんでした。5つの航路で30分から40分で結ばれる距離感、広島市、呉市にも通勤通学圏内として十分あり。そのフェリーの移動時間を、「遠くて苦痛な時間」ではなく、むしろ「快適で知的で楽しい時間」に価値変換するためのアイデアが、「えたじま海の図書館」です。フェリーの船室に上がると、季節ごとのテーマに合わせて選書された本が本棚に並び、思わず手に取って、パラパラとページをめくりたくなる。毎日、小説を読み進めるのもよし。最新の雑誌から情報をキャッチするのもアリ。島外から江田島を目指してフェリーを利用してくれる人にとっては、島のガイドブックを手にとったり、マップでルートを確認したり、サイネージから流れる映像で江田島のおすすめスポットを知ることができたり。 ・「えたじま海の図書館」を、自らの手で運営したい！と思う市民が集い、企画運営する母体として、江田島市から、委託管理を受託する団体を立ち上げ、マイパブリックの思想で、共感する人を増やしながら、自走可能な仕組みを築き、自分の街のことは自分たちで良くしていきたい。将来的には、学校、公民館、港の待合室、ホテルのロビーなど、あらゆる場所に、図書館分室があつて、すべての蔵書がDX化されたアプリで、江田島市民なら、いつでも、どこでも、本を借りて、返せる環境をつくる。そのような取り組みを行ってはどうか。	・図書館のあり方に関する具体的な取り組みについては、ご意見を踏まえつつ、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。 ・なお、宇品～三高航路、宇品～切串航路に就航するフェリーは民間企業の所有物です。航路事業者にご意見を伝え、対応可能かどうか検討を依頼します。
32	—	次の施策を提案します。 ・道の駅を作る。①ユウホウ紡績跡②津久茂旧小学校跡③能美町高田のさつき園の南 ・国道・県道の道路沿いにある昔のタバコ屋等を利用して、サイクリングルート各所にアンテナショップを公募してつくる。 ・陀峯山の頂上や深江、柿浦の空き地を整備し、ログハウスを3棟ぐらい建てる。土日週2日は開放してクラブハウスとする。 ・柿浦阿浜の土地を整備する。柿浦棧橋一帯や旧小学校跡地で、民間企業に協力してもらい、2次産業を残す。港を自然プールにする。松原海岸も自然生物の住める場所とする。 ・大柿町大原の中央の県大柿土木事務所跡を再建して能美城を建設する。住民記念館として残す。 ・市内全土をシリコンバレー的産業を育てて、デジタルのイメージの島として、人材を集めて育てる。 ・高度成長時代に活躍した、各所の港と大きな棧橋が残っている。クルージングや週土日に海運ルートを拡く。	・多くのご提案を頂きました。施策の効果や費用、ニーズなどを踏まえつつ、具体的な取り組みについては、基本計画や実施計画の策定過程で検討してまいります。